

経営協議会委員からの意見等に対する取組状況

(令和7年度)

回	年月日	学外委員からの意見等	大学の取組状況
103	令和7年6月19日	<議題>大学運営に関する意見交換 ・複数の部局でミッションや機能が重複している場合には、それぞれの役割や目的を見直し、組織改編において選択と集中を図ることで、大学として注力すべき分野にリソースを効果的に集中できる体制を整えることが望ましい。	令和8年4月、組織再編として高知大学イノベーション&ソーシャルインパクト・イニシアティブ(i³K)と地域・世界つながり推進機構を設置しました。 高知大学イノベーション&ソーシャルインパクト・イニシアティブ(i³K)は、研究開発戦略実行計画において「イノベーション研究特区」(Social Impact Hubや研究プロジェクト群)を定義し、インセンティブの付与や重点支援を行います。また、現在分散している学内の研究伴走機能(社会実装に関するものも含む)をi³Kの下、新設したイノベーションセンターに集約し、研究活動を戦略的に推進していきます。 地域・世界つながり推進機構は、これまで自治体や産業界と連携した地域課題解決やJICA等との国際研修を展開してきた次世代地域創造センターと、留学支援・外国語教育・留学生受入等を担ってきたグローバル教育支援センターの機能連携を一体化し、地域創生と大学の国際化を同時に推進する基盤を構築するために設置しました。両組織ともに、複数部局のミッションや機能の見直しともに、学内リソースの効果的な配分を念頭においた組織の再編を実施しております。
104	令和7年9月25日	<議題>知的財産の活用状況について 本件に限らずではあるが、比較対象の大学を四国内のみでなく、全国の大学へ広げ、本学がどの位置にいるか把握する必要があるのではないか。	本学においては現在、例えば、財務レポートにおいては、比較対象を同規模大学(医科系学部その他の学部で構成され、学生収容定員1万人未満或いは学部等数がおおむね10学部未満の24大学)として四国のみならず全国の大学と比較・分析を行っています。比較対象の大学を四国のみでなく全国に広げること、ベンチマークする大学の在り方等については引き続き検討してまいります。

回	年月日	学外委員からの意見等	大学の取組状況
105	令和8年1月22日	<議題>その他((1) 地域協働学部新学科設置の計画について) 今後18歳人口が減少すること、大学の規模の適正化が求められている状況を踏まえると、組織改革を行うにあたっては、より一層経営的視点を持って検討してもらいたい。	今後、18歳人口の減少は避けられない状況であり、本学を含め大学全体を取り巻く経営環境が一層厳しさを増す一方で、国立大学が地域から求められる役割は多角化していくと認識しております。限られたリソースの中で教育研究の質の維持・向上、また、地域における「知の総和」の向上を図る観点から、本学の強みや社会的要請を踏まえつつ、組織の在り方についても戦略的な視点から検討を進めてまいります。また、令和8年度にかけて、県内の様々な機関等と連携しながら、「地域構想推進プラットフォーム」において、県内の人材需給ニーズについての調査や調査に基づいた議論を行う体制の整備等を進めているところです。
		<議題>大学運営に関する意見交換（「高知大学グランドデザイン2040（案）」について） ・高知大学として、「養成する人材像」をより一層明確化することが求められる。 ・高知大学独自の言い回しができるとよい。 ・デジタル技術の活用が求められる一方で、高知県には農地等一次産業のフィールドがあり、これら地の利を生かした実践的な教育を行い、ポストAI時代を戦っていくべき。 ・世界的な視点で書かれている箇所は抽象度が高く、大学として何を実現するかのリアリティが不足していると感じるため、高知県の地域課題解決と絡めた実効性のある戦略を描けるとよりよくなるのではないかな。 ・県内では、本学卒業生は責任感があり、人格	「高知大学グランドデザイン2040（案）」については、経営企画推進機構において、令和7年度より、当該機構に設置した経営戦略会議等での議論を重ねながら、策定に向けた検討を進めております。また、構想のさらなる深化やグランドデザイン案のブラッシュアップ、全学的なビジョンの共有・浸透を図るため、全学を対象とした意見交換会も実施いたしました。このたびの大学運営に関する意見交換において学外委員の皆様からいただいたご意見も踏まえ、主に以下の観点をグランドデザイン案に反映し、検討を進めました。 ・旧制高知高等学校初代校長・江部敦夫氏の言葉を引用し、学生に「感激」を与える大学を目指す姿勢を明記することなどにより、本学の独自性を表現。 ・本学が目指す人材育成の方向性として、「創造性と人間性に根ざした未来人材の育成」について追記。 ・「地域が直面するリアルな先鋭的課題」や「地方にはリアリティがある。だからこそ、世界を変えることができる。」との考え方を盛り込み、本学の使命や役割、強みをより明確化。 ・全体的な表現や構成を見直し、ストーリー性をより明確化。

回	年月日	学外委員からの意見等	大学の取組状況
		者として育ってきているという評価が一定あるように感じるため、そのような人間性の教育についても触れてはどうか。 ・高知県と高知大学がこれまでに積み上げてきた良いものを生かして、これからの AI 時代に向けて、基礎学力と感性の両方を兼ね備えた人材を育てていくことが重要である。	・地域の実課題の解決と持続可能な地域社会の実現を見据え、地域における人材需要等を踏まえた本学の役割について追記。
108	令和 8 年 3 月 19 日	<議題>大学運営に関する意見交換 ・学部から大学院への定員振替については、地域における人材需要やリスクリング、アップスキリングを念頭に置いて検討してはどうか。	地域における人材需要やリスクリング、アップスキリング等については、今後の大学運営において、課題感を持って取り組むべきポイントであるにとらえており、地域における「知の総和」の向上を図る観点から、本学の強みや社会的要請を踏まえつつ、学部・大学院等の定員の在り方等につきましても、戦略的な視点から検討を深めてまいります。また、令和 8 年度にかけて、県内の様々な機関等と連携しながら、「地域構想推進プラットフォーム」において、県内の人材需給ニーズについての調査や調査に基づいた議論を行う体制の整備等を進めているところです。また、令和 9 年度には、農林海洋科学専攻に、社会人向けリカレント・リスクリングの専門教育プログラム「土佐フードビジネスクリエイター」からの接続も想定したフードビジネスコースの新設等を行う予定です。